

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

平成 年 月 日

協議会名: 福井市地域生活交通活性化会議

評価対象事業名: 陸上交通に係る地域公共交通確保維持事業(地域内フィーダー系統)

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
【補助対象となる事業者名等の名称を記載】	【系統名・航路名・設備名、運行(航)区間、整備内容等を記載(陸上交通に係る確保維持事業において、車両減価償却費等及び公有民営方式車両購入費に係る国庫補助金の交付を受けている場合、離島航路に係る確保維持事業において離島航路構造改革補助(調査検討の経費を除く。)を受けている場合は、その旨記載)】	【事業評価の評価対象期間において、前回の事業評価結果をどのように生活交通確保維持改善計画に反映させた上で事業を実施したかを記載】	A・B・C評価	【計画に位置付けられた定量的な目標・効果が達成されたかを、目標ごとに記載。計画どおり実施されなかった場合には、理由等を分析の上記載】	【事業の今後の改善点及びより適切な目標を記載。改善策は、事業者の取り組みだけでなく、地域の取り組みについて広く記載。特に、評価結果を生活交通確保維持改善計画にどのように反映させるか(方向性又は具体的な内容)を必ず記載すること。】 ※なお、当該年度で事業が完了した場合はその旨記載
京福バス株式会社・酒生いきいきバス東郷ルート	市街地の東部に位置する酒生地域において、高尾町の斜面住宅団地を起点に、既存集落を経由してJR越前東郷駅や済生会病院、スーパーマーケット等に至る路線(路線定期運行)	引き続き、地域の運行協議会が主体となって、時刻表の全戸配布やポケット時刻表の作成・配布等を周知活動を行った。地域の祭りなどのイベント等にも活用されており、地域活性化のツールとしても活用されている。	A	計画どおり事業は適切に実施された。	単なる公共交通不便地域の解消だけでなく、地域住民のコミュニティ醸成や地域活性化のツールとしても活用が図られている。 ・年間利用者数:9,000人に対して9,574人 ・乗継利用の割合:45%に対して65.5% 利用者数・乗継利用の割合ともに目標値を達成した。
京福バス株式会社・酒生いきいきバス北ルート			A	計画どおり事業は適切に実施された。	
京福バス株式会社・酒生いきいきバス南ルート			A	計画どおり事業は適切に実施された。	
京福バス株式会社・岡保地域コミュニティバス北周り	市街地の東部に位置する岡保地域において、既存集落を経由して済生会病院、ショッピングセンターやスーパーマーケット等に至る路線(路線定期運行)	バスの時間に合わせた公民館でのイベントを開催するなど、地域の取組により、バス利用者の定期的な利用に繋がっている。	A	計画どおり事業は適切に実施された。	酒生地域と同様に公共交通不便地域の解消だけでなく、地域住民のコミュニティ醸成や地域活性化のツールとしても活用が図られている。 ・年間利用者数:8,500人に対して7,664人 ・乗継利用の割合:40%に対して48.6% 利用者数は利用促進の取組状況等により、目標値には達しなかった。乗継利用の割合は目標値に達しており、他の交通機関との連携が図られている。
京福バス株式会社・岡保地域コミュニティバス南周り			A	計画どおり事業は適切に実施された。	

光タクシー有限公司・殿下 かじかポッポー地区外ルー ト	市南西部の殿下地域(中山間 地域)の谷筋に散在する集落 から、地区の中心部を経由して 隣接地域の大規模商業施設に 至る路線(区域運行)	定期的に交通新聞を発行し、 利用状況を地域内に報告する ことで、地域住民のコミバスに 対するマイバス意識の醸成を 図った。	A	計画どおり事業は適切に実 施された。	B	高齢者を中心に日常生活 に欠かせない移動手段とし て定着が図られてきたもの の、高齢化の進行により利 用者が減少。 ・利用者1人あたり行政負担 額:1,200円前後/人に対し て1,535円/人 ・乗継利用の割合:45%に 対して66.7%と目標値を達 成した。	利用者は、減少しているが中 山間に住む高齢者にとっ ては、必要不可欠な交通手段と なっている。 デマンド型交通は、乗合率が上 がらなると収支率は良くならな いので、地域の運行協議会、事 業者と連携して乗合率の向上 を図る。
福井鉄道株式会社・青葉台 ルート	市南部の麻生津地区におい て、斜面住宅団地である青葉 台や江尻ヶ丘、スーパーマー ケットや鉄道駅等を経由する循 環路線(路線定期運行)	鉄道等との往復乗継割引切符 の周知広報を通して、地域内 移動だけでなく、乗継ぎによる 地域間移動を推奨することで利 用促進を図った。	B	乗継切符の周知広報につ いて、車内、及び駅舎のみ の周知にとどまり、幅広く周 知広報を展開することがで きなかった。	B	江尻ヶ丘団地等、従来バス 交通サービスが希薄であっ た交通空白・不便地域の解 消が図られた。 ・利用者数:7,000人に対し て6,587人 ・乗継切符販売数:30枚/月 に対して9枚/月 目標値には達しなかった。 利用者数については、協力 団体による高校生通学利用 に対する運賃補助が無く なことが影響していると 考えられる。 乗継切符については、周知 広報が主に利用者に対して しか伝わっておらず、新規 利用者の確保につながら なかった。	・沿線にある高校に通う学生に 対して、時刻表や電車の乗継 ダイヤを記載したチラシを配布 する等、周知広報に努め、利用 者像を図る。 ・沿線にある商業施設とのタイ アップ企画等を検討して、利用 促進策を展開する。 ・鉄道との往復乗継割引切符 については、自治会の協力を 得て、各世帯へのチラシ等の 配布を行い、きめ細かな周知 広報を展開していく。
福井鉄道株式会社・江尻ヶ 丘ルート					B	・B評価を踏まえて、乗継切符 の周知広報については、交通 事業者とともに、各世帯へのチ ラシ等の配布を行い、きめ細か な周知広報を展開していく。 ・また、沿線にある商業施設と のタイアップ企画等を検討し て、利用促進策を展開する。	
福井鉄道株式会社・大島下 荒井ルート	市南部の清明地区において、 公共交通サービス圏域外の住 宅団地や既存集落と、地域内 の大規模商業施設を結ぶ循環 路線(路線定期運行)	ショッピングセンターの敷地内 でのバス停新設及びこれに伴 う各ルートの一部経路変更し利 便性の向上を図った。	B	乗継切符の周知広報につ いて、車内、及び駅舎のみ の周知にとどまり、幅広く周 知広報を展開することがで きなかった。	B	杉谷町や大島町等の公共 交通空白・不便地域の解消 が図られた。 ・利用者数:13,000人に対し て13,710人 乗継切符販売数:20枚/月 に対して7枚/月 乗継切符については、周知 広報が主に利用者に対して しか伝わっておらず、新規 利用者の確保につながら なかった。	
福井鉄道株式会社・江端 ルート					B		
福井鉄道株式会社・清明南 ルート					B		
福井鉄道株式会社・清明南 ルート公民館2度回り					B		

(別添1)

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(計画策定に係る事業)

平成 年 月 日

協議会名: _____

①事業の結果概要	②事業実施の適切性		③生活交通確保維持改善計画又は地域公共交通網形成計画等の計画策定に向けた方針
【事業内容及び結果概要を記載】	A ・ B ・ C 評価	【事業が適切に実施された(されている)かを記載。適切に実施されなかった(されていない)場合には、実施されなかった事項及び理由等記載】	【補助申請を行う補助対象事業名、事業内容、実施時期等を記載】

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(計画推進に係る事業)

平成 年 月 日

協議会名: _____

①事業の結果概要	②事業実施の適切性		③事業の今後の改善点 (特記事項含む)
【事業内容及び結果概要を記載】	A ・ B ・ C 評価	【事業が適切に実施された(されている)か記載。適切に実施されなかった(されていない)場合には、実施されなかった事項及び理由を記載。】	【事業の今後の改善点として、取組内容・関係者それぞれが果たすべき役割等を記載。】

事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

平成 年 月 日

協議会名:	福井市地域生活交通活性化会議
-------	----------------

評価対象事業名:	陸上交通に係る地域公共交通確保維持事業(地域内フィーダー系統)
----------	---------------------------------

地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	既存ストックを活用しながら、公共交通のサービス向上と利用促進に取り組み、中心部のにぎわいと郊外部のやすらぎを結ぶ、誰もが安心して快適に移動できる全域交通ネットワークの構築を図る。地域にふさわしい交通サービスの確保と利便性向上を進め、過度にクルマに依存した交通環境からの脱却と、環境負荷の小さい公共交通への転換を目指す。
-----------------------------	---